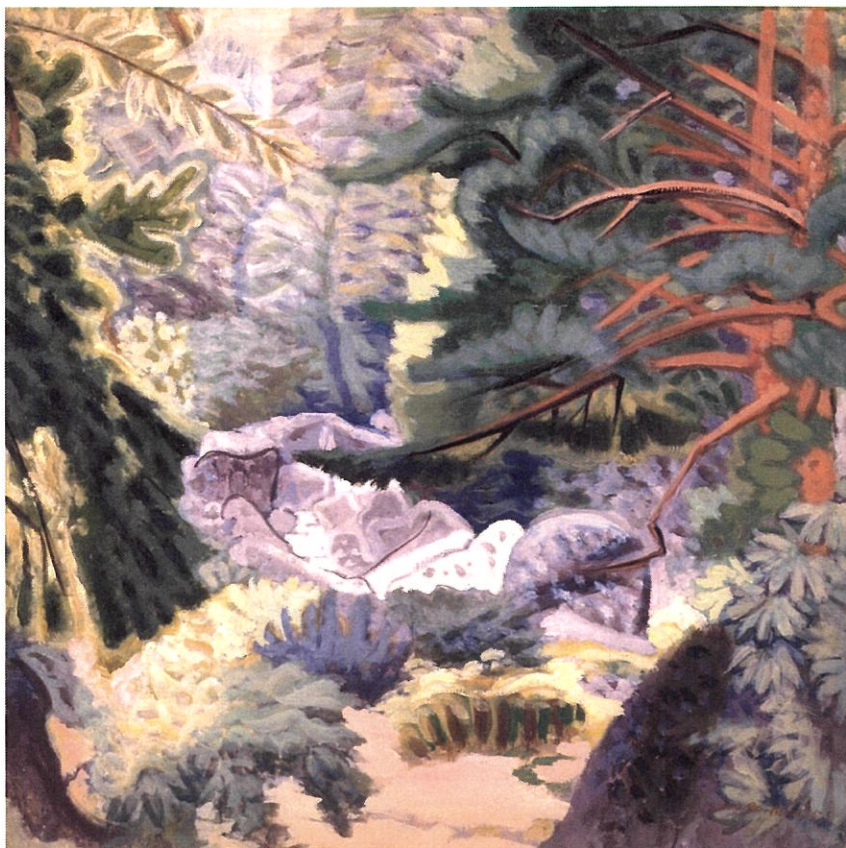


宮本三郎 風景を描く

Saburo Miyamoto:
The Decorative Landscapes

2019年10月26日[土] >>

2020年1月13日[月・祝]



《赤松と溪流》1935年

宮本三郎 風景を描く Saburo Miyamoto: The Decorative Landscapes

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum

展覧会名 令和元年度第Ⅱ期収蔵品展 「宮本三郎 風景を描く Saburo Miyamoto:The Decorative Landscapes」
会 期 2019年10月26日[土]～2020年1月13日[月・祝]
会 場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836 www.miyamosaburo-annex.jp
主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館
開館時間 10時～18時（最終入館は17時30分まで）
休 館 日 毎週月曜日（ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日は休館）
11月4日（月・振休）、1月13日（月・祝）は開館、11月5日（火）は休館
年末年始（12月29日～1月3日）
観 覧 料 一般200円（160円）、大高生150円（120円）、65歳以上、中小生100円（80円）、
障害者100円（80円）ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者（当該障害者1名につき1名）
は無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※小・中学生は土、日、祝・休日は無料

宮本三郎 風景を描く The Decorative Landscapes

人物を主題とすることが多かった洋画家・宮本三郎（1905～1974）ですが、しばしば風景画も描いていました。それらの作品群は人物画と同様に、多彩な画風とタッチを駆使して制作されており、生涯にわたって表現の可能性を実験的に試み続けた宮本の、あくなき探求心をみてとることができます。

本展では、1930年代末と50年代中頃の2度に亘る滞欧期にヨーロッパ各地で描かれたもの、終戦直後の数年間を過ごした郷里の自然、箱根や熱海、奈良や長崎など国内各地を巡るスケッチ、戦後からほどなくして復興を遂げてゆく東京の眩いネオンが光る夜景など、時代と場所を変えて画家が対峙した様々な風景をご紹介します。宮本の眼と筆が捉えようとした一瞬の輝きや時代の空気感が、それらの風景を通して、鮮やかに立ち現れます。

ところで、風景画では、山々の連なりや水辺の情景、あるいは家々や建造物が立ち並ぶ街の様子など、ある景色が一定の距離感をもって展望するように描かれます。そのため、特定の対象に焦点がしばられる人物画などと比べると、観る者の視線もまずは画面全体を「眺める」ことになるでしょう。このように、モチーフ上での主役と脇役との線引きが希薄となる風景画では、宮本作品に通底する、フラットで装飾的な画面構成がいつそう際立つことに気づかされます。

宮本三郎作品の魅力の一面をお楽しみください。

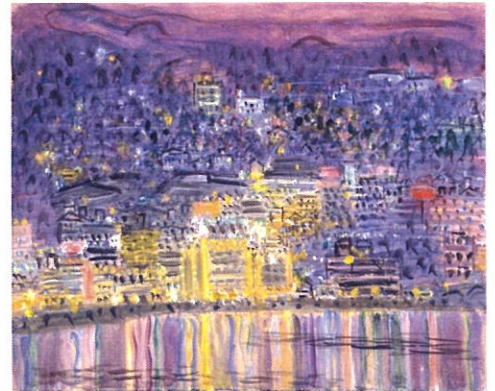
◆各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。 ※（ ）は題不詳につき仮題



《(セーヌ河岸)》1952-1953年



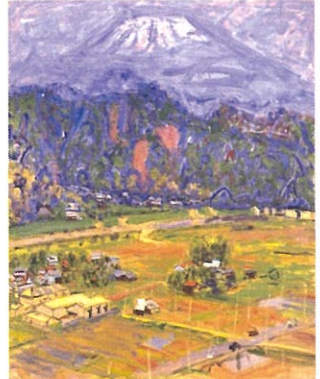
《郊外の町》1939年



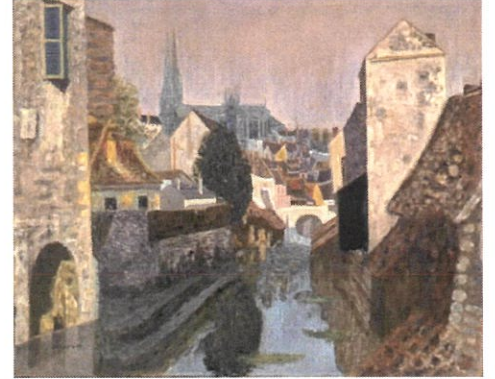
《熱海夜景》1963年



《(風景/四手網漁)》1945-1948年頃



《風景 富岳と山村》1962年



《シャルトル風景》1939年

◆宮本三郎（みやもと・さぶろう）について

1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》（1942年）をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



◆宮本三郎記念美術館について

洋画家・宮本三郎（1905－1974）が長きにわたり制作の拠点とした地に、世田谷区が建設した美術館で、2004年4月に世田谷美術館の分館として開館しました。展示室において年2回開催する収蔵品展を通じ、宮本三郎の画業を様々な視点からご紹介する他、館内の講座室では、講演会やワークショップ、コンサートなどを開催しています。

◆ギャラリートーク

担当学芸員による展示解説。入館料のみでどなたでもご参加いただけます。

日時 2019年10月26日[土]11時～
2019年11月30日[土]11時～

場所 当館2階展示室
参加費 無料（観覧料別途）
※事前申込不要／20分程度



ギャラリートーク
(2019年7月13日撮影)

◆音広場「クロマチックハーモニカ トーク&コンサート」

日時 2019年12月21日[土]14時30分～16時（有料）

※参加方法など、詳細は決定次第ホームページなどでお知らせします。

◆当館では年間を通して講演会やワークショップ、コンサートなどを開催しています。

[参考] 2019年の活動



ニューイヤー・コンサート
アコルディ弦楽四重奏団
(2019年1月27日撮影)



実技講座「画家の目、画家の心」
(2019年7月15日撮影)



鑑賞ワークショップ
「絵をみること・かんじること・わかること」
(2019年8月28日撮影)

◆次回展予告

第5回宮本三郎デッサン大賞展 - 明日の表現を拓く

2020年1月25日[土]～3月15日[日]

◆交通案内

東急東横線・大井町線「自由が丘」駅下車／徒歩7分

東急大井町線「九品仏」駅下車／徒歩8分

東急目黒線「奥沢」駅下車／徒歩8分

東急バス（渋11） 渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車／徒歩1分

東急バス（園01） 千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車／徒歩10分

※当館の来館者用駐車場は、車椅子の方用スペース1台分のみとなります

◆お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館（広報担当）

Email miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL 03-5483-3836 FAX 03-3722-5181

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館